

私の願い

校長 武井 正明

昨日、子どもの人格形成の根本は親の教育にある、と述べました。

学校教育が親の教育方針を差し置いて、家庭まで入り込んでもいいというならいくらでもやりますが、それは叶わない。家庭教育の直前までしか私たち学校は介入できません。

では、親はどうあればいいのか。

私はこう思います。

人間を価値づける基準を、金持ちと貧乏、男性と女性。成績のいい悪い、この3つで教育をしていると、かなりの高確率で子どもは悪い方向に行きます。

私の母親は農家で、お金に苦労する親を見て育ちました。お金がないばかりに、成績優秀な長兄は上の学校を、泣く泣く断念して、農家を継ぎました。だから、当時「勉強しなさい。学校の先生はいいよ」「お父さんは高卒だから、お前は大学に行って安定した職業に…」と事あるごとに私に言っていたことが愛情の裏返しだった、ということもよく理解できます。

さらによせばいいのに「俺はバカだから」と母の言を、息子の前で肯定する親父でした。それが私の、人に対する価値基準を歪めていったことも、事実です。

そんな高卒の父ですが、87歳の今も穴が開くほど隅々まで新聞を読み、日記を書き、家の周りを掃除し、家族の帰宅を笑顔で労って迎えてくれます。こんな息子にも感謝の念をもって、周囲を気遣い、迷惑を掛けないように慎ましく生きています。

高い学歴などありませんが、私は父親のことを尊敬しています。到底父にはかなわないと思っています。人間の価値とは、勉強ができるかどうかなどということではなく、人と仲良く協調し、誰に対しても同じ態度で、感謝して謙虚に生きていく姿にこそある、と父の生きざまから教えてもらっています。

そして「西蒲の雄」吉田を支えている大先輩諸氏に共通しているのが、自分のことではなく後進や未来の吉田を考えて、社会貢献しようという気概に溢れているところです。

これから未来の「心の故郷」吉田を支えていく君たちには、そういう大きな人物になってほしい。

教師が、親が、地域が本気になってこれらのことを思い願って子どもたちに接していけば、子どもたちはしぜんと自分自身の力で伸びていくものなのではないでしょうか。

そうでなければ、私たちの思いが、まだまだ足りないのだと思います。

子どもたちが生き生きと、どんどん伸びていく姿、これを見るのが私は今から楽しみではありません。4月から新たに加わる167人の皆さん、心からお待ちしています。